

# 平成 26、27 年度独立行政法人国立青少年教育振興機構 「子どもゆめ基金」事業の取り組み

## The report of project of National Institution for Youth Education “Children’s Dream Fund” in 2015

太田 あや子、福島 邦男、高橋 こずえ\* (武蔵丘スポーツクラブ)

Ayako OTA Kunio FUKUSHIMA Kozue TAKAHASHI

武蔵丘スポーツクラブは、平成 26 年度、27 年度に吉見町と連携して、独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」(子どもの体験活動の進行を図る活動)の助成事業を実施した。内容は『子どもスマイルチャレンジ!～雪で遊ぼう!～』、『親子わくわく自然体験教室～川の生活を知ろう!～』、『親子わくわく自然体験教室～海の生活を知ろう!～』3 種類の自然体験教室で、親子合計 139 名(子ども 81 名、保護者 58 名)の吉見町民の参加者を得て、自然の中ならではの親子ともに学びの多い体験活動を実施した。また、本学学生や卒業生が運営補助員として参加し、指導者としての資質や意識を高め、幅広い年齢層の人々とのコミュニケーション能力を向上させた。

It cooperated with Yoshimi-machi in 2015, National Institution for Youth Education “Children’s Dream Fund”.

Musashigaoka Sports Club held 3 programs, “snow sports” in March, “canoeing” in June, “snorkeling” in September for family. 139 persons participated and the aim was achieved.

### 1. 初めに

平成 26 年度、27 年度に独立行政法人国立青少年教育振興機構『子どもゆめ基金』(子どもの体験活動の進行を図る活動)の助成事業に武蔵丘スポーツクラブ(以後「ムサタン SC」)が応募し、審査を経て助成対象団体となった。この事業は子どもの自然体験活動の取り組みを支援する補助事業で申請した事業実施後に経費の 3 分の 2 程度が補助される。ムサタン SC では、短期大学所在地の埼玉県吉見町の子どもを対象に 26 年度に『子どもスマイルチャレンジ!～雪で遊ぼう!～』の 1 事業を、27 年度 9 月までに親子わくわく自然体験教室～川の生活を知ろう!～』、『親子わくわく自然体験教室～海の生活を知ろう!～』の 2 事業、計 3 事業を、本学教員や学生卒業生が運営に加わり実施した。本稿ではその概要を紹介したい。

### 2. 事業の概要

『子どもゆめ基金』は、国と民間が協力して子どもの体験・読書活動などを応援し、子どもの健全育成の手助けをする基金である。この基金は今日、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化して、自分自身で考えて創造したり、他人を思いやったりする力が身につけていないことが懸念されていることが

ら、学校外の地域を中心とした自然体験活動等の体験活動を通してそれらの力を養うことを目的としている。助成対象となる団体は法人格を持つ団体(NPO 法人など)や活動実績のある任意団体が対象となるため、子どもの活動支援団体に門戸は広く開かれている。事業採択後は、同一団体は 5 年間にわたり継続的に助成申請することができる。

### 3. 事業計画書作成

『子どもゆめ基金』の情報は県のスポーツクラブ関係者の情報メールでクラブに知らされ、ムサタン SC は平成 26 年度の事業は年度途中 6 月に第二次募集に、平成 27 年の事業は平成 26 年 11 月の平成 27 年度通年活動を対象とした第一次募集にそれぞれ応募した。

応募書類はクラブ事務局員の高橋こずえが担当し、青少年教育振興機構のホームページからダウンロードして入手し、事業の目的やプログラム内容、日程、予算を記入して、機構へ郵送した。助成申請の採択結果は、平成 26 年度は 9 月に、27 年度分については 27 年 3 月に郵送で届いた。

### 4. 事業実施の概要

1) 子どもスマイルチャレンジ!～雪で遊ぼう!～  
期日：平成 27 年 2 月

実施場所：新潟県 湯沢カルチャーセンター 中央公園

参加者：子ども 56 人 保護者 36 人 スタッフ 10 人 構成員 1 人

目的：雪の降らない埼玉県から新潟県の豪雪地帯湯沢に行き、雪の遊び体験を行い、現地の子どもたちとの交流を通して雪国での生活を理解する。また、この活動に参加することにより、引率や指導スタッフとして大人たちも交流を深め、吉見町の地域コミュニティづくりに活用する。武蔵丘短期大学の学生をスタッフとして参加させ、地域貢献の機会をつくる。

### プログラム

2/28 土	5:45	JA 埼玉中央北支所集合
	6:00	出発 (バス)
	9:15	湯沢カルチャーセンター到着
	9:30	開会式
	9:45	雪合戦大会 大人も子どもも4チームに分かれて雪合戦大会
	10:10	プログラム①雪遊び ・雪山ソリ遊び ・バナナボート体験
	12:00	昼食
	13:00	ゲーム大会 ・雪上でのレクゲーム
	13:00	プログラム②湯沢の子どもたちとの交流会 ・雪だるま作り ・宝さがしゲーム
	16:00	閉会式
	16:30	湯沢カルチャーセンター出発
	16:40	休憩 (お土産屋さん)
	3/27 金	19:25

事業の成果や改善点：この事業は吉見町生涯学習課生涯スポーツ係担当者と相談して、町立北小学校の男性保護者の会「北の親父 (きたのおやじ)」とともに実施した事業である。事業実施までに本学からは健康マネジメント専攻の福島邦男准教授が野外活動の専門スタッフとして参加し、往路のバス内でのレクリエーション活動や現地湯沢の専門指導員の指導をアシストした。また、本学健康スポーツ専攻卒業生の2名が補助員として参加し、活動を補助した。

多くの子どもたちが普段生活している地域と変わっての雪の多さに驚きながらも、雪遊び体験を楽しむことができた。特段の指導や指示を受けなくても、自分たちで雪での遊び方を発見し実行していく子どもたちの姿は、普段の生活では見ることのできない姿であった。また、同時にテレビゲームなど道具に頼らずとも、雪だけでもいろいろな遊びができるという事を学んだ。また、雪と共生していく雪国の生活の困難さを学び、改めて埼玉県での普段の生活の有難味を知った。現地の子どもたちとは「雪だるまづくり」や「宝探し」などを一緒に行い、交流を深めることができ、貴重な体験ができた。また、子どもたちだけではなく、大人も子ども同様のいろいろ雪遊びを体験し、童心に戻ったように楽しむことができ、交流を深めることができた。スタッフも町民と関わることができ、今後の事業の幅が広がるきっかけとなり、平成27年度からは任意団体の「北の親父」が直接この基金に申請して活動助成金を受けるきっかけとなった。このことはスポーツクラブを通じた武蔵丘短期大学の地域吉見町への大きな社会貢献になったと考えている。



### 2) 親子わくわく自然体験教室～川の生活を知らう！～

期日：平成27年6月13日 (土)

場所：埼玉県寄居町玉淀 たまよどカヌーリゾート

参加者：子ども 16 人 保護者 14 人、指導者 1 人、  
スタッフ 3 人 (学生)、構成員 3 人

目的：寄居町は吉見町から車で一時間とかけられない距離に位置し、川や山などの自然がたくさんある。子どもたちは自分の住まいの身近に自然があることを知り、カヌー体験を通して川遊びの際の安全管理や川の生き物の生態、地域の特性などを学ぶ。また、親子でカヌーを漕ぐことで人と協力することの大切さや親子の絆を深める。また、野外炊事で野外での生活の大変さを知り、震災時などにも対応できる力を身につける。川の博物館で水の大切さや川の生き物の生態を学び、水の重要さを知る。

6/13 土	7:45	集合・受付
	8:00	開講式
	8:10	出発 (バス)
	9:00	カヌーリゾートたまよど到着
	9:30	プログラム①カヌー体験開始
	12:00	プログラム①カヌー体験終了
	11:55	プログラム②野外炊事体験開始 (ピザ焼き体験等)
	13:50	プログラム②野外炊事体験終了
	14:00	自由時間
	14:30	カヌーリゾートたまよど出発
	14:45	川の博物館到着
	14:50	プログラム③川の博物館見学開始
	16:50	プログラム③川の博物館見学終了
	16:50	川の博物館出発
	17:40	武蔵丘短期大学到着
	17:50	閉講式・解散

事業の成果や改善点：平成 27 年度の事業は、通常の『親子わくわく自然体験教室』3 教室とし、それぞれ「川の生活」、「海の生活」、「雪国の生活」とし、様々な自然環境の中で、親子で自然体験を通じて学ぶ事業として計画し、本事業はその第 1 弾である。

参加した子どもたちの多くは、前年度にムサタン SC の短大でのプール教室に参加し、カヌーを経験したことがある子どもたちであった。プールでの様子を見るとカヌーをもっとやってみたいという自然体験に興味のある子どもが多いことがわかったため、今回の教室実施となった。子どもたちは、普段やっているゲームをせずに、自然の中でも 1 日中楽しい活動ができるという事を知ることができた。まづ最初に安全管理の観点から水辺に出るときには必

ずライフジャケットを着用するように指導員から強く指導された。初めは不安からか、親子で同乗する「カナディアンカヌー」に乗ることを希望していた子どもたちも、インストラクターの指導で上手に漕げるようになると、自分ひとりで漕ぐ「カヤック」に乗ることを強く希望するようになり、自分ひとりで湖面に漕ぎ出し、目的地に行き、栈橋にカヌーを横付けして戻るという自立した活動に積極的に参加するようになった。子どもたちは達成感を得てとても満足そうであったのに加え、その様子をつぶさに見ていた保護者も子どもの成長に目を見張ることとなった。

子どもたちは野外炊事にも積極的に参加し、野菜や肉を焼いたり、皿に盛り付けたり、簡易窯でピザを焼いたり食事の準備を手伝い、炊事体験活動も楽しんでた。また、本学の福島ゼミ所属の健康スポーツ 2 年生の男子学生 3 名が、カヌーの出し入れやツーリングに活躍し、指導補助者として成長した姿を見せた。

最後に川の博物館を見学し、子どもだけではなく、大人も今しがたカヌーを漕いだ荒川の歴史や仕組みなどを知ることができ、とても良い経験になった。また、参加したいという声が多く、来年度もぜひ実施していきたいと考えている。



### 3) 親子わくわく自然体験教室～海の生活を知ろう！～

日時：平成 27 年 9 月 20 日 (日)、21 日 (月) シルバー  
ウィーク中

場所：静岡県西伊豆町 黄金崎公園

参加者：子ども 9 名、保護者 8 名、スタッフ 6 名、

クラブ関係者 3 名、現地指導者 2 名

地元西伊豆町の子ども 8 名、保護者 1 名

目的：海なし県、埼玉県民は海に憧れを抱いている

が、実際には毎年夏になると水難事故が増える傾向がある。そこでスノーケリング体験や磯遊びを通して、水場での活動の仕方を学び、水に対しての恐怖心を和らげ、海での安全な活動の楽しさを子どもたちが学ぶ機会とする。また、子どもだけでなく、保護者も水場での安全管理についての理解を深めることができる。また、漁船ナイトサファリでは、夜の海の生物が観察でき、海に対する理解を深め、漁師さんや地元の子ともたちと交流することで海の生活について学び、自身の暮らす地域との違いを学ぶ。

1 日目は初めてスノーケリング体験をする子どもが多く、少し戸惑いながらも目を輝かせ体験を楽しんでいる姿が見られた。スノーケリング体験やナイトサファリでは普段では見ることのできない魚や生き物を観察して海の偉大さを知ることができた。

2 日目の磯遊び交流会では、地元の子ともたちと一緒に採集した生物で水槽に自分たちだけの水族館を作った。さすがに地元の子ともたちは海の体験に慣れており、生物の見つけ方や海辺での身のこなし方など、埼玉の子ともたちは学ぶことがたくさんあった。また、保護者も子どもと一緒に体験を楽しむことができ、海での安全管理や遊び方への理解を深めることができた。地元の子ともたちの積極的な関わりにより最後は一緒に遊ぶ姿が見られ、知らない者同士でも仲良くなれることを体験できた。一人ひとりが指導者の話をしっかり聞き、一生懸命取り組むことができたため、事故もなく無事に終了することができた。

スクーバダイビングの C カード保持者である健康栄養専攻 1 年生 2 名と 2 年生 1 名の計 3 名の女子学生が指導補助者として参加し、一緒にスノーケリングをしたり、交流のための野外炊事の準備をしたりに活躍した。

シルバーウィークの高速道路の大渋滞に巻き込まれ、バスでの移動時間が往復ともに 5 時間以上と長時間にわたったこと、ならびに更衣やシャワー施設のある活動場所がスクーバダイビングのサイトでもあり、台風の影響で普段の 3 倍以上の利用者がいる中での活動となり、落ち着いた雰囲気味あわせることができなかったことが反省点である。今後の日程調整に活かしていきたい。

#### スケジュール

9/20	7:00	集合・受付	
	7:10	出発 (バス内で開講式)	
	13:15	黄金崎公園到着	
	13:30	プログラム①スノーケリング体験開始	
	15:30	プログラム①スノーケリング体験終了	
	17:00	夕食	
	19:00	プログラム②漁船ナイトサファリ	
	20:30	プログラム②漁船ナイトサファリ	
	21:00	やまびこ荘到着	
	22:30	就寝	
	9/21	6:30	起床
		7:00	朝の体操
7:30		朝食	
9:00		やまびこ荘出発	
9:30		黄金崎公園到着	
10:00		プログラム③磯遊び交流会開始 (BBQ 会)	
13:30		プログラム③磯遊び交流会終了	
14:00		黄金崎公園出発 (バス内で閉講式)	
21:30		武蔵丘短期大学到着	

事業の成果や改善点：平成 27 年度の事業は、通年の『親子わくわく自然体験教室』3 教室の第 2 弾である。





## 5. まとめ

平成 26 年度から「子ども夢基金」の助成団体となり、武蔵丘スポーツクラブの活動はますます広がった。平成 27 年度には現時点でまだ 1 件の事業が残っているが、これも成功に導いていきたい。この事業は自然体験に参加する子どもや保護者のみならず、活動を補助する本学学生や教員、卒業生にとっても多くのことを学ぶよい機会となった。今後 3 年間は助成申請が可能なので、今後も継続して自然体験事業を企画して申請を続けるとともに、地域の他の総合型地域スポーツクラブや PTA などの子ども指導団体にも情報を提供して地域の活動団体の活性化に役に立てていきたいと考えている。

